

平成29年度 学校関係者評価報告書

学校法人有坂中央学園 中央工科デザイン専門学校

学校関係者評価委員会

学校法人有坂中央学園 学校関係者評価委員会において「平成29年度自己点検」結果を学校関係者評価委員に平成30年8月8日に報告したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係評価委員

業界関係者: 松本 州史(東京理器株式会社 代表取締役)

業界関係者: 森井 勝利(群馬漫画連盟 会長)

業界関係者: 矢島 達也(クシダ工業株式会社)

保護者: 中野 京子(中央工科デザイン専門学校 保護者会副会長)

※平成29年度委員の大島 陽子さん(中央工科デザイン専門学校 保護者会会長)の評価含む

■欠席

業界関係者: 宮野 知代(デザインオフィス絵組 代表)

卒業生: 石川 直哉(中央工科デザイン専門学校 卒業生)

2. 平成29年度自己点検・自己評価における学校関係者評価(平成30年2月27日、8月8日に頂いた評価)

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組
1. 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none">●教育理念・目標を定め、学生に対して周知徹底を図り、社会のニーズに対応した社会人の育成に努力している。●教育目的・目標を定め、学生や保護者等に対して、シラバスや学園新聞等を利用して情報開示、情報共有している。	<ul style="list-style-type: none">○教育理念や目標は学生生活の手引きに記載し、学生に配布することで周知徹底を図っている。今後はクラス目標や学園標記などをクラス掲示する等行い周知を図りたい。○保護者等に対し、学校への理解をより一層深めてもらうため、年間行事スケジュールやシラバスの情報などを、ホームページや保護者会等で開示していきたい。
2. 学校運営	<ul style="list-style-type: none">●業界や地域社会に対するコンプライアンスについて取り組みを強化する。●自己点検や評価報告書など、情報公開を継続して行う。●運営組織の明確化のため、運営組織の広い理解のため、組織を公開するべき。	<ul style="list-style-type: none">○業界や地域社会に対するコンプライアンスは、法令・社会規範等を遵守することがこれまで以上に重視されるので、学生の行動指針の策定、内部統制の取り組みを進めると共に、学生への周知に努めたい。○自己点検や評価報告書などの公開データはホームページで行っており、今後も継続して更新を進めたい。○ホームページでの公開を検討する。

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組
3. 教育活動	<p>●授業評価の実施体制については、教師アンケートを学生に対して定期的実施している。</p> <p>●専攻分野についての研修や、指導力向上のための研修については、全体職員研修や個別研修で各自取組みを行っている。</p> <p>●実践的な職業教育を行うため、企業と連携して業界で必要とされる技術が習得できるようカリキュラム編成を行っている。外部関係者による評価も実施しており、連携する企業数の拡大に取り組んでいる。</p> <p>●卒業制作展の作品展示において見応えのある作品が増えた。展示方法も変わり見やすくなった。(松本)</p> <p>●HPの更新が遅いように感じる(森井)</p> <p>●社内専用のHPがあり、外部公開できない情報を掲載。入学希望、在校生、企業、社内等、発信先を選べると良い。(矢島)</p> <p>●弊社に見学に来た際に、入退室の挨拶がしっかりできていたので非常に印象が良かったが、強いて挙げるなら質問ができるとなお良い(森井)</p> <p>●学生からどのような授業をしているか話を聞く機会がある。座学・実習・見学が連動した授業は特徴的で、この学校ならではの教育をしているという印象(大島)</p> <p>●卒業研究発表会については、事前の模擬プレゼンなどで、委員を相手に練習して頂くのも良いと思う。(松本)</p> <p>●ドローン撮影は注目している技術。デザイン技術を持たない操縦者が多く、撮影がうまくいかない。ドローンを指導する際にはそういう技術も取り入れるべき。(森井)</p>	<p>○教師アンケートの手法を変更した。手法改善により、前回、前々回とのアンケート結果の比較が容易になり、改善しやすくなる。</p> <p>○研修計画を体系的に組み、関連企業と連携して実践的な研修を行い、組織全体として教育力の向上を図る。</p> <p>○学校評価を行う外部関係者や連携企業数を拡大するため、就職指導センターが持つ企業とのネットワークを有効に活用し広げていきたい。</p> <p>○大きい作品を制作する学生が多く、内容的にも良い作品が出てきた。次年度も継続できるように学生指導を進める。</p> <p>○InstagramやTwitterなどでの更新を進めたためブログ更新の頻度が下がった。職員で分担を決めて更新を進めたい。</p> <p>○学生向けや卒業生に向けたページがあっても良いと思う。休講情報などをHPで発信できるようにしていきたい。</p> <p>○見学に行く際には、学生に必ず質問をするよう指導している。見学の意義を説明する際に、再度疑問をしっかりと持つよう指導したい。</p> <p>○学生の理解を中心に授業編成を考えています。内容については各学科内で検討しながら、柔軟に対応しています。また、外部の方には授業を見学いただけるよう調整を行いたい。</p> <p>○学生のプレゼンレベルをもっと上げ、卒業研究発表会では一般の方や関連企業の方にも参加してもらいたい。</p> <p>○デザインの要素は様々な業界で取り入れられているので、カリキュラム編成においても、必ず組み込んでいきたい。</p>

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組
4. 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> ●資格取得率向上のため、試験スケジュールを考慮したカリキュラム編成を行い、複数の資格が取得できるよう、効率よく勉強できる時間割を設定している。 ●学生の生活態度を把握し、学生との面談を随時行うことで、退学率の低減を図る。 ●卒業後のキャリア形成を把握するため、就業状況調査票により卒業生の就業状況のアンケートを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き試験全員合格を目指していく。 結果一覧資料の作成については、定型フォームを作成したので、29年度からデータ入力を行う。見方なども含めて表現方法を検討する。 ○退学を決定する根本的な原因を追究するため、教務側は複数人での対応やヒアリング等を行い、事態の把握と解決に努める ○29年度も Web での回答ができるようにしたが、回答率が低かったので実施方法の検討が必要。
5. 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業生支援のため、卒業生も利用できる就職指導センターを常設している。 ●社会人ニーズに対応し、社会人入試や教育訓練給付の対象コースを用意している。 ●保護者と連携するため、年に2回の保護者会と、適宜担任が連絡を行っている。 ●高校からの依頼により、進路ガイダンスや模擬授業、インターンシップ等の受入を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業生の利用を促進するため、在学中からセンターの利用方法を周知していきたい。 ○教育訓練の利用者促進のため、ホームページの掲載やチラシ配布等で、外部へのアピール方法を検討したい。 ○保護者会参加者が増えるよう、実施曜日の変更や Web を使ったの告知方法を検討。 ○高校への派遣授業なども積極的に行っていきたい。高校の先生が教えられないことをパッケージ化して提案したい。
6. 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ●授業に必要な機材等は授業担当者の申請により整備をしている。 ●インターンシップについては、各学科で実施可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○機材の購入等は進めているが、授業担当者の裁量によるところが大きいいため、施設や設備の定期的な見直しを図る必要がある。 ○内定先企業でのインターンシップや、就職指導センターを経由しての受け入れ先の開拓など、学生を受け入れてくれる企業を増やすと共に、インターンシップの実施内容についても魅力的な経験ができるよう、企業担当者と連携することで、インターンシップを利用する学生を増やしていきたい。
7. 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ●学生募集活動は、適性に行われている。 ●教育成果は、オープンキャンパスやパンフレット、学園新聞、ホームページ等で広く伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○群馬県専修学校各種学校連合会に加盟し、定められた募集開始時期や募集内容などを遵守している。 ○教育成果を含めた具体的な学校情報を公開することで学校への理解を促進していく。歩行ラリーや学科単位の就職内定先なども広く公開していきたい。

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組
8. 財務	<ul style="list-style-type: none"> ●財務体質が健全であり、適切な財務運営が行われている。学生募集による、財務基盤の弱体化の恐れがあるため、学生の退学防止、経費節減等に力を入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部監査による健全な学校経営を維持するとともに、入学者数の安定確保のための募集活動の強化、退学率の低減、経費節減に努める。
9. 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ●法令を遵守し、自己点検・自己評価を行うと共にそれらの情報を公開している。 ●自己点検結果はホームページにて公開している。 ●個人情報の取り扱いについては、入学時に学生本人からサインして承認を貰っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己点検内容の更なる改善と、それに向けた関係各所との連携を進めたい。また、評価委員についても多様な意見を頂けるよう、委員の人数の増加を進めたい。 ○学校情報の公開について、閲覧する人に良く分かってもらえる資料作りを意識して作成していきたい。 ○入学時のサインだけでなく、進級時に再度確認の意味を込めて、個人情報の取り扱いについての説明を実施したい。
10. 社会貢献・地域活動	<ul style="list-style-type: none"> ●地域貢献のため、地域清掃やボランティア活動、地域イベントへの参加への参加などを積極的に行っている。 ●ボランティア活動などは個人ではまず行わないので、学校で機会を与えてもらえるのは非常にありがたい(大島) 	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の教育資源を十分に活用して、社会貢献・地域貢献を行っている。より多くの学生が参加できるよう、学生への呼びかけや運用整備を進めたい。
11. 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ●グローバル化に対応できる人材育成をどのように行っていくか検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○電気工事分野の留学生が入学してくるため、指導方法の更なる検討と研究を早急に進める必要がある。 ○グループ内にイングリッシュビレッジ前橋を新設。英語を日常的に使うために「英語で学ぶ」授業ができないか検討している。

※上記、「評価」の列は学校関係者評価委員による評価を記載。個人での発言があった評価は文末に個人名を記載。評価委員の総意を頂いた評価は、個人名での記載はしていない。

3. 総評

平成29年度の報告。委員による評価は良好であることから、中央工科デザイン専門学校の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価される。

卒業研究発表会や卒業作品展についてのご意見、ホームページの更新頻度、学生作品の公開状況、学校のカリキュラム内容についてなど、頂いた様々なご意見を参考に改善していきたい。

全体として学校の教育活動、学校運営について問題はなく、引き続き取り組みを進めることが求められる。

以上